

ジョフジャエフ・ジャムフル

ウズベキスタン出身

筑波大学 理工情報生命学術院 修士課程

「仲間づくりの大切さ」

来日まで私は社会的な人でしたが、日本での大学生活を始めてから人々とあまり交流しなくなりました。筑波大学は留学生が多く交流する機会がたくさんありますが、学部の時には学業で非常に忙しく最初の 2 年は大学のキャンパスとバイト先のショッピングモールしか知らなかったほど忙しかったです。毎日フルコマの授業を履修しており、しかも日本語力が低かったため一般の日本人学生より授業内容を理解するのに時間がかかっていました。その結果当時の考え方が変わり、人と話すのは無駄なことで時間をより有意義なことに使うべきだと思い込んでいました。しかしながら、3 年生になってからロータリー米山記念奨学会の奨学生として選ばれ、時間に余裕をもてるようになりました。その後アルバイト辞めて、学業に専念することができました。現在の修士課程では学士に比べて授業が少なく、坂口財団の助成の陰で勉学・研究とソーシャル生活を両立できています。大学院ではウズベキスタン出身の友達ができました。彼は筑波大学のほとんど全ての留学生を知っているほど社会的で、彼のおかげで私も多くの友達を作ることができました。

人と会話をすることで情報を交換することができるし、気分をリフレッシュすることもできます。なお、自分と違うバックグラウンド(国籍や文化等)の人と話すことで自分の視野が広がり、異文化理解が深まり、新しい価値観を知ることができます。私は、大学院で知り合った人々と接するこれを改めて体験することができました。例えば、アフリカの料理をシェアする文化や戦争地から

逃げた難民の日本での生活やインドの多様な宗教等について友達に教えてもらいました。

世界を知ることやネットワークを広げることは将来社会に出て活躍する時に役に立つので非常に重要です。しかし、それよりも大切なのは出来た新しい繋がりを大切にすることだと思います。人と知り合い相手から自分に役立つものを得るだけでなく、お互いを助け合うことが仲間の義務だと考えます。特に、このストレスの多い社会では孤独では生活を送ることはできません。一緒に話せる人や一緒に時間を過ごせることが重要です。

私は自分の大学に入ってから多くのストレスを感じていました。でも、周りの仲間がいつも必要な時に助けてくれたり、時には励ましてくれたりしたおかげで私が無事に大学を卒業することができ、現在は修士課程に上がることができました。これからも、今の仲間を大切にしながら新しいつながりをつくり、自分も誰かのために役立てたいと思います。

以上



▲学部の時からずっと一緒にいてくれた大切な友達との写真です。